

特許調査の進化：生成AIから自律型AIエージェントへのパラダイムシフト

第1段階：従来型調査 (人間主導)

検索式の構築から数千件の文獻読解まで、すべてを人間が行う労働集約型のアプローチ。精度と再現率のトレードオフに苦しみ、属人性が高い。



新規性調査
数週間

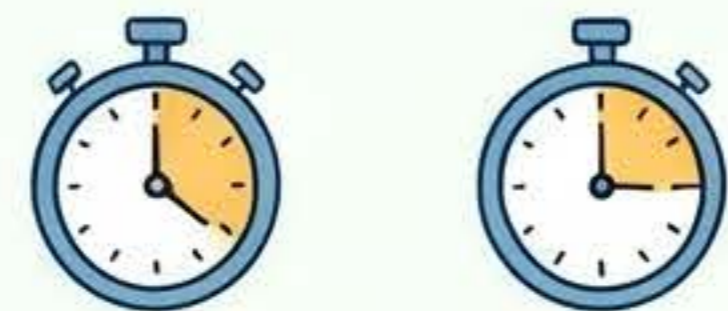


第2段階：プロンプトドリブン型 (島津製作所モデル)

熟練者の「着眼点」や「判断ロジック」を構造的なプロンプト (形式知) 化し、AIに一次処理を委ねる。島津製作所では年間1億円以上のコスト削減を達成。



新規性調査



数週間 15分への短縮

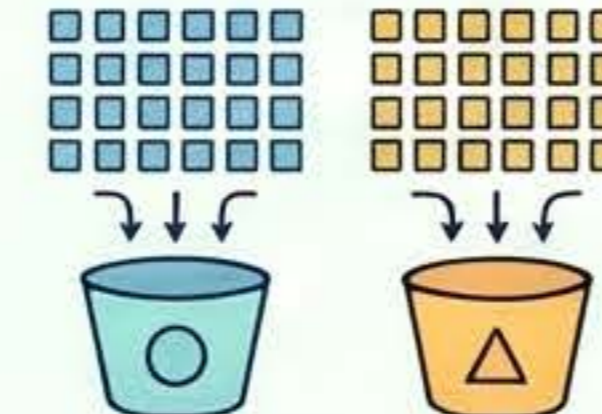
従来の数週間要した調査が、開発費をAIに委ねるだけで13分で完了 (構成要件抽出・検索・対比表作成の自動化)。

無効資料調査



閉じた環境 (NotebookLM等) でのパルシネーションを抑えた論理表作成

FTO調査



数千件のクレームをAIで全件判定 (○/△判定)

第3段階：AIエージェント型 (自律型ワークフロー)

AIが自律的に「目的」を理解し、検索、評価、再検索のループ (エージェントワークフロー) を回す。人間はAIが出力した「設定パッケージ」の監査に専念。



ガラスの箱 (Glass Box) アプローチ：最新のAIエージェント (IPRolly等) は、ブラックボックスではなく、透明な特許文書の機軸に基づいているかを完全に透明可能 (Traseable) にする。

エンタープライズ級のデータ保護：DeepIPやMinesoft等のプラットフォームは、SOC2 Type iPPISG 17260を認証。顧客の未立脚データをAIの平足に悪用しない厳格なポリシーを使用している。

新規性調査



グラフベースAIによる自律的なグローバル構図とマッピング。AIが審査官の引用パターンを学習し、頭受検索から独立クレームのドラフトまで提案する。

無効資料調査



自律的経路発掘。および5103 (目明性) の組み合わせ自動生成。単なる流儀等が対象だった「発明の組み合わせ (目明性)」をAIエージェントが体系的にスロアリングし、最も効率的な経路の提案を提示する。

FTO調査



多国間マッピング、陳腐クラス探索。および連携的価値。陳腐法新種明までの目標的探索や多面での「連携的価値」により侵害リスクを最小化する。

IP専門職の未来：求められるスキルの変化



認知的な役割からの解放：検索式の構築スキルよりも、AIの出力を批判的に評価する「プロンプトエンジニアリング能力」と「AIリテラシー」が不可欠となる。



知財開闢の人間の資格：AIエージェントを検査的に構造的整理し、実務的エンジニアリング能力を後的に善与する徹底化。



知財の戦略的運用：AIエージェントを「知的な同僚」としてオーケストレーションし、M&A戦略 (特許シナジー評価) や動的なポートフォリオ管理といった経営判断に善与する役割へ。